

「クリーン・ビーチいしかわ in かなざわ」への参画
～「クリーン・ビーチいしかわ」そして「学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦」～
団体名：人間科学部スポーツ学科池田ゼミナール・野外スポーツ部 代表者名：池田幸應

1 はじめに（背景・目的・目標）

日本は、周囲が海で囲まれ、古くから海と共に人々の暮らしが培われてきた。石川県もその大部分が海と隣接しており、583kmの海岸線を有し、特に県民と海とは親密な関係であり続けている。

石川県の海岸線をきれいにする海岸愛護運動「クリーン・ビーチいしかわ」は、1995年から海に面した県内8市17町からスタートし翌年より全県の県民運動として、毎年約10万人が参加しており（2017年度末で累計2,480,352人）、その活動名は石川県民のみならず全国へ発信されている。

本学としても、「野外スポーツ部」設立当初（「野外スポーツ同好会」として1998年11月設立）から本活動に参加しており、中高年齢層の参加者が多く、複数の大学生の組織的・継続的参加として、目立つ存在であった。1995年度「クリーン・ビーチいしかわ」がスタートした当時、小学生であった子どもたちも「大学生」という年齢に成長し、次世代の担い手として期待される中、本学学生の継続参加を契機に、2001年秋、「学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦 ～学生もやるときゃ やるぞ！～」が実施され、その後の活動継続が期待され、継続活動として、今回で18回目を迎えている。この活動は、学生たちが自然の中で海や海岸等の環境保全の重要性を理解し、若い感性で主体的にボランティア活動を通して学びながら、そのエネルギーを社会に役立てるために企画、実施されており、筆者が実行委員長を務めている。現在も野外スポーツ部学生が中心的に運営に係っており、2007年以降、人間科学部スポーツ学科池田ゼミナールやフィールド演習関連学生、クリーン&グリーン学生所属も参画し活動継続されている。また、その後、学生参画の活動も多岐にわたり、現在では、「クリーン・ビーチいしかわ in かなざわ」、「いしかわ漁民の森づくり」、「ビーさん跳ばし世界選手権 in 金沢」、「稚魚の放流」、「漂流物展」

「学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦」等にも中心的に運営・サポート参画しており、高い評価を得るに至っている。

2 活動内容

2018年度中の主な活動は、以下のとおりである。

(1)「クリーン・ビーチいしかわ in かなざわ」〔2018年5月27日（日）、金沢市打木海岸：地域住民、地元企業の各種団体、個人による海岸清掃活動、*本学野外スポーツ部が運営ボランティアリーダー〕



写真1 左：開会式、右：参加したフィールド関連学生

(2)「いしかわ漁民の森づくり」〔2018年6月10日（日）、羽咋市千里浜町：県漁業・水産・森林関連団体、協賛企業、地元団体、地域住民による海岸林の調整伐、*本学野外スポーツ部が参加〕



写真2 左：学生の伐採活動、右：活動後の集合写真

(3)「稚魚の放流」〔2018年8月23日（木）、羽咋市釜屋海岸：石川県「2018年度 海辺の漂着物調査」事業の一環。本学池田ゼミナール、フィールド関連学生、石川県庁インターンシップ学生、県環境行政担当者による稚魚放流（ヒラメ250匹）、「栽培漁業」についての講演、海岸漂着物調査、*例年、羽咋市内の全小学校小学4年生～6年生児童が参加しているが、今回は熱中症事故防止のため見合わせた。〕



写真3 左:稚魚を放流する学生、右:活動後の集合写真

(4)「ビーサン跳ばし世界選手権 in 金沢」〔2018年8月26日(日)、金沢市金石海岸:地域住民、地元企業の各種団体、個人による海岸清掃活動及び71チーム213人参加によるビーサン跳ばし競技、*本学野外スポーツ部が運営〕



写真4 左:距離計測する学生、右:結果を記録表示する学生

(5)「漂流物展」〔①2018年8月25日(土)・26日(日)、石川県産業展示館4号館:公益社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議、石川県等「いしかわ環境フェア2018」事業の一環。本学池田ゼミナール、フィールド関連学生、県環境行政担当者との協働によるブース出展及び運営サポート、*池田ゼミナールブースの継続出展、「クリーン・ビーチいしかわ」ブース及び石川県「廃棄物対策課ブース」の運営協力、②2018年11月24日(土)・25日(日)、金沢駅もてなしドーム地下イベント広場:市民等の来場者への海岸愛護運動の啓発、*池田ゼミナール学生による運営協力〕



写真5 左:ゼミナールブース、右:漂流物展での学生

(6)「学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦」〔2018年9月30日(日)、野々市市内(学びの杜のいちカレード 御経塚遺跡、野々市市ふるさと歴史館・埋蔵文化財収蔵庫):野外スポーツ部、池田ゼミナ-

ル学生、他大学学生等による地域の魅力についての学習、河川清掃活動、*本学野外スポーツ部が運営リーダー、高橋川周辺清掃は台風接近のため中止〕



写真5 左:放流ドジョウを見る学生、右:御経塚史跡での様子

3 成果、結果の考察

今回の活動は、単なる海岸保全の「海岸清掃活動」に留まらず、クリーン・ビーチいしかわ実行委員会をはじめ、石川県環境部、各活動場所の管轄自治体、各種団体との連携協働による地域資源の再認識及び環境保全に非常に役立っている。大学生の主体的活動は、特に地域社会での次世代人材育成としての側面に加え、活動の多くに子どもたちを対象とする活動も多く含まれているので、子どもたちへのふるさと教育や環境教育推進にも大きく役立っているものと期待される。本活動が単年度や短期間で終了してしまうのではなく、継続的・発展的に学生間で引き継がれていることは、世界的なSDGs(「Sustainable Development Goals」:持続可能な開発目標、2015年9月の国連サミット採択)の視点からも、本活動の更なる継続発展実施が期待される。

4 今後の課題、展望

全県の組織である「クリーン・ビーチいしかわ」の活動の中でも、本活動が学生主体の活動ではあるが、学生参加者についても、本学学生が中心となっているため、より多くの他大学や専門学校、そして高校生の協働参画が望まれ、その仕組みについての検討が必要である。

(参考引用文献)

■クリーン・ビーチいしかわ実行委員会『クリーン・ビーチいしかわ2017活動報告書』(2018)